「社員の幸福、生産性増す」

東信経済倶楽部 慶大院教授が講演

東濃信用金庫の取引先の経営者らでつくる「東信経済倶楽部」は23日、第450回講演会を多治見市虎渓山町のとうしん学びの丘エールで開いた。慶応大大学院の前野隆司教授が「ウェルビーイング経営～社員と社会を幸せにする経営とは!?～」をテーマに語った。

会員ら約90人が耳を傾けた。前野教授はウェルビーイングを「心と体、社会の良い状態」と説明。「幸福度が高いと視野が広くなり、視野が広いと幸せになる好循環が生まれる」とした。幸福度の高い社員の創造性は3倍、生産性は3割高いとの報告を紹介し、「まず社員の幸せを考える経営は必須。生き生き、わくわくと働き、大きな目標が一致しているとうまくいく」と助言。やる気と、つながりをキーワードに挙げた。

日本では顧客第一や自己犠牲の意識が強く、社員の幸せを優先する経営は遅れているとし、「歯を食いしばり過ぎるとバーンアウトし、世のために尽くせない」と警鐘。「幸せに働くことは決して楽をすることではない。皆で考え、新しいチャレンジをしてやり遂げることだ」と強調した。経営者には「部下を育て、権限を委譲し、信じて任せて」と勧めた。（小森直人）



講演する 前野隆司教授＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

無断複製・転載を禁じます